

## 前回の議事録

1. 第3回H30年度イベント実行委員会（平成30年6月14日）・・・P2
2. 第31回維持管理・環境管理専門委員会（平成30年7月20日）・・・P5

第30回 維持管理・環境管理専門委員会  
第3回 H30年度イベント実行委員会  
議事録

●日時：平成30年6月14日（木）14:30～16:30

●場所：上尾市コミュニティセンター第2集会室

●資料

- ・ 資料-1. 前回の議事録
- ・ 資料-2. H30年度イベントについて
- ・ 資料-3. H30年度維持管理について
- ・ 資料-4. H30年度工事について
- ・ 資料-5. マーケットリサーチについて
- ・ 資料-6. 全体構想の時点更新について
- ・ 参考資料-1. H30年度維持管理・イベントスケジュール

イベント実行委員会に関わる事項を黒文字で、それ以外はグレー文字で示しています。

【議事結果】

- ① 中池散策・写真撮影イベントは、委員主体で実施していけるよう、なるべく内容や準備物を簡素にする。
- ② 秋イベントのスタッフについては、昨年度と同様、実行副委員長は川島委員長から埼玉大学生、司会は事務局から桶川西高校に依頼する。
- ③ 助成金の申請はチラシ・ポスター印刷、マップ作成を主体に、余裕があれば適宜必要な物品を加えて申請する。詳細はイベント実行委員長と事務局で調整する。
- ④ 6月23日のミドリシジミ観察と除草の維持管理イベントは、当日参加できる委員の人員を踏まえて、資料の細部を詰めて事務局より各参加委員に連絡する。
- ⑤ 6月27日の維持管理作業は、前回残ったハリエンジュの伐採と中池の管理用通路沿いのオオブタクサを主体に実施する。
- ⑥ 川島町の方で、農業・畜産関係の団体の役員会等に伺い、協議会の取組を紹介することを検討する。
- ⑦ 下池の掘削予定範囲の低木や草本を含めた植物相全体の情報を確認しておく。次回の委員会で掘削の際の配慮事項等について再検討する。
- ⑧ 環境経営研究会やその所属企業との連携について検討していく。
- ⑨ 川島町には「町民カメラマン」の制度があるため、太郎右衛門の紹介につながるよう、イベントがある時には情報を提供する。
- ⑩ 彩の国環境大学修了生の会については、川島委員より当会の活動への参画を呼びかける。
- ⑪ 全体構想の改定にあたり、古くなった情報を時点更新するという事務局提案について、ある程度整理が出来た段階で事務局から提示する。

## 【主な議事内容】

### ●前回の議事録について

(質疑応答なし)

### ●H30年度イベントについて

- ・ 中池散策・写真撮影イベントは、委員主体で実施していけるようになるべく内容や準備物を簡素にする。事務局は安全管理に必要な人員だけ対応する程度にしていく。以上の観点から、6月16日に実施する際はテーブルの用意は不要。前日11時の天気予報によって、実施について判断する。
- ・ 秋イベントのスタッフについては、昨年度と同様に、実行副委員長は川島委員長から埼玉大学生、司会は事務局から桶川西高校に依頼する。
- ・ 助成金の申請はチラシ・ポスター印刷、マップ作成を主体に、余裕があれば適宜物品を加えて申請する。詳細はイベント実行委員長と事務局で調整する。イベント実行委員会を開催するかどうかは、イベント実行委員長と事務局で相談して決定する。
- ・ マップ作成について、秋のイベントに間に合わせるためには、いつから着手すれば良いか、製作期間を確認すること。

### ●H30年度維持管理について

- ・ 6月23日のミドリシジミ観察と除草の維持管理イベントは、当日参加頂ける委員の人員を踏まえて、資料の細部を詰めて事務局より各参加委員に連絡する。
- ・ 6月27日の維持管理作業は、前回残ったハリエンジュの伐採と中池の管理用通路沿いのオオブタクサを主体に実施する。後者については、秋イベントで利用する予定である、上流側の範囲を中心に実施する。前回実施できなかったオオカワヂシャの除草については、実施可能な状況であれば追加で実施する。
- ・ 5月17日に維持管理を実施した中池では、オオブタクサを「抜いた」場所と「刈った」場所で違いが出ていた。刈った場所では再度成長が見られ、抜く方が効果は大きいと考えられた。オオブタクサが生えていない場所も、在来種ではあるが高径のオギやつる性のカナムグラやクズが繁茂しており、これらが通路沿いまで迫ると景観はあまり良くない状態となる。農業用の草刈り機などを所有している地元の方々に協力して頂いて広く草刈りが出来ると良い。また、ヤギやヒツジによる植生管理も一案として考えられる。
  - 川島町の方で、農業・畜産関係の団体の役員会等に伺い、協議会の取組を紹介することを検討する。
- ・ 川島委員からの依頼により、特定非営利活動法人鴻巣こうのとりを育む会のメンバーが今後の維持管理作業に参加して頂ける予定である。
- ・ 今後の維持管理の進め方の細部は、委員長と事務局で詰めていく。

●H30年度工事について

- ・ 予定通り掘削する場合、移植すべき対象や掘削土砂の埋土種子利用の可能性があると想定されるため、低木や草本を含めた植物相全体の情報を確認しておく。水路沿いなどにもシダ類などの留意すべき種がある可能性がある。
- ・ 今年度の工事に向けて、8月中には方針を決める必要があるため、次回の委員会でこの情報をもとに掘削の際の配慮事項等について再検討する。
- ・ 委員会で再度、現地を確認することを検討する。

●マーケットリサーチについて

- ・ 環境経営研究会やその所属企業との連携について検討していく。
- ・ 接点を持つような企業や大学があれば、委員長または事務局に連絡する。委員長と事務局で進め方を詰めて、具体的に動く際には各委員に参加を募る。
- ・ 川島町には「町民カメラマン」の制度があるため、太郎右衛門の紹介につながるよう、イベントがある時には情報を提供する。
- ・ 彩の国環境大学修了生の会については、川島委員より当会の活動への参画を呼びかける。

●全体構想の時点更新について

- ・ 全体構想の改定にあたり、古くなった情報を時点更新するという事務局提案について、ある程度整理が出来た段階で事務局から提示する。

以上

## 第31回 維持管理・環境管理専門委員会 議事録

●日時：平成30年7月20日（金）15:00～17:00

●場所：上尾市文化センター 303集会室

### ●資料

- ・ 資料-1. 前回の議事録
- ・ 資料-2. H30年度の維持管理活動について
- ・ 資料-3. H30年度実施予定の工事について
- ・ 資料-4. マーケトリサーチについて
- ・ 参考資料-1. 「荒川太郎右衛門地区自然再生事業 自然再生全体構想」 新旧対照表(案)
- ・ 参考資料-2. H30年度の維持管理活動・イベントスケジュール

### 【議事結果】

- ① 中池管理用通路の富士山が見える場所は、植生管理の方向性・目標等を検討する必要がある。委員長と事務局でたたき台を検討し、今後、委員会に提案する。
- ② 9月5日の維持管理作業は、60分間維持管理作業を行い、その後の20分で「下池試験掘削地」(H26整備)へ試験移植したハンノキ周辺に自然発生したハンノキの幼木を確認する。
- ③ 水路下流側の旧流路に近い位置のハンノキとクヌギを残す形で掘削ラインを決定する。
- ④ 水路構造は現状維持とするため、水路下流側の水路沿いのハンノキとクヌギ2本は残す。
- ⑤ 掘削予定範囲に含まれる重要種は、周辺の類似環境に移植する。
- ⑥ 掘削予定範囲に隣接する重要種と協議会注目種は、工事の影響を受けないよう配慮すること。
- ⑦ マーケトリサーチは、タイミングが重要であるため、各委員が独自にリサーチを実施し、事後報告しても良い。
- ⑧ エコプロ2018の参加日は、12月7日（金）とする。時間は10:00～14:00とする。

## 【主な議事内容】

### ●前回の議事録について

(質疑応答なし)

### ●H30年度の維持管理活動について

- ・ 中池管理用通路の富士山が見える場所は、再びツル性植物やオオブタクサが繁茂してきている。
  - この場所の植生管理の方向性や目標、植生管理を実施するための費用を確保する手段等を検討する必要がある。
  - 以上について、委員長と事務局でたたき台を検討し、今後、委員会に提案する。
- ・ 中池の水辺を、子供が楽しめる場にしたいが、安全面で課題がある。
- ・ 9月5日の維持管理作業は、60分間維持管理作業を行い、その後の20分で「下池試験堀削地」(H26整備)へ試験移植したハンノキ周辺に自然発生したハンノキの幼木を確認する。

### ●H30年度実施予定の工事について

- ・ 現地状況確認を踏まえ、H30年度工事は下記の対応をとる。
  - 水路下流側の旧流路に近い位置のハンノキとクヌギを残す形で掘削ラインを決定する。
  - 水路構造は現状維持とし、水路下流側の水路沿いのハンノキとクヌギ2本は残す。
  - 掘削予定範囲に含まれる重要種は、周辺の類似環境に移植する。
  - 掘削予定範囲に隣接する重要種と協議会注目種は、工事の影響を受けないよう配慮する。
- ・ フジカンゾウやヤブタバコが現地で新たに確認されたので、これを図に落としておくこと。
- ・ 今後、タケの拡大抑制の対策が必要になる可能性がある。
  - タケノコ取りのイベントなどを開催すると良いかもしれない。
  - 人を集めるには、食べ物があることや、お土産を持ち帰れることは有効である。
  - そのような取り組みによって、大きな収益にはならなくても、専属者の活動が維持できる程度の資金確保につながると良い。そのような知恵を持っている人を見つきたい。
  - 太郎右衛門地区は、すべての環境が希少種の生育場所というわけではないため、ある程度、自由に活動できるフィールドを選定し、活用してもらうことも良いと考えられる。

●マーケットリサーチについて

- ・ 委員会の場に限らず、アイデアがあれば委員長や事務局に連絡・相談してほしい。また、この活動はタイミングが重要であるため、各委員が独自にリサーチを実施し、事後報告しても良い。
- ・ 柔軟な発想ができる若い人たちが、太郎右衛門地区で活動してもらえると良い。その際は、ある程度、若い人たちに任せることが重要だと考えられる。また、金銭面でサポートできる体制づくりも必要かもしれない。
- ・ 川島町の町民カメラマンに、太郎右衛門地区をアピールできると良い。先行事例としては、鳩山町の「熊井の森写真学校」がある。プロカメラマンを呼び、参加者と四季のカレンダーを作成する取り組みである。
- ・ 研究者を誘致する方法も考えられる。その場合、まず中心となる研究者を誘致し、その後、他の研究者に太郎右衛門地区を研究材料として紹介して頂く形になる。
- ・ 太郎右衛門地区に関心を持って頂けそうな人・団体があれば、現地を案内する。
- ・ エコプロ2018の参加日は、12月7日（金）とする。時間は、前回と同様10：00～14：00とする。詳細は、追って周知する。

●自然再生全体構想の一部改定（案）について

- ・ 全体構想に魚類に関する記載がないのでは。
  - 目標種のリストや目標を達成するための施策において言及している。初期の全体構想作成時には、魚類の保全・再生についても議論をした。
  - 今後、確認し、意見があれば、事務局へ伝える。

●その他

- ・ 今回は、お盆明けから9月上旬ぐらいに、イベント実行委員会と合同開催の予定とする。
- ・ 川島委員が、8月24日（金）の午後、ISE2018のスペシャルセッション16で荒川太郎右衛門地区自然再生協議会に関する発表を行う。会場は、御茶ノ水の日本大学である。
- ・ 10月下旬～12月にかけて、荒川の定期横断測量を実施する予定である。測量作業に必要な草刈り等を行う時には、環境に配慮して実施する。

以上